

株式情報／会社概要 (2011年3月31日現在)

● 株式情報

発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式総数	12,775,000株
株主数	11,956名

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	出資比率
双日株式会社	3,832	30.0%
株式会社日本航空インターナショナル	2,727	21.4%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	581	4.6%
東京海上日動火災保険株式会社	455	3.6%
三井住友海上火災保険株式会社	252	2.0%
株式会社損害保険ジャパン	189	1.5%
空港施設株式会社	168	1.3%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	115	0.9%
JALUX社員持株会	112	0.9%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	51	0.4%

● 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
株主確定基準日	3月31日(定時株主総会・期末配当金)
単元株式数	100株
株主名簿管理人 特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先・郵送先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都江東区東砂7丁目10番11号 ☎0120-232-711
公告掲載方法	当社ホームページにおける電子公告

ご注意

- 住所変更などの各種お手続きにつきましては、原則として口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。当社株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関である三菱UFJ信託銀行にお問い合わせください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

● 会社概要

商号	株式会社 JALUX (ジャルックス) 【英文名 JALUX Inc. 】
証券コード	2729 (東証1部)
設立	1962年(昭和37年)3月28日
資本金	25億5,855万円
従業員数	1,654名(連結子会社1,117名を含む)
国内空港店	24空港92店舗
国内関連企業	(株)JALUXエアポート(空港店舗運営業務)※ (株)JAL-DFS(免税品販売)※ (株)JALUXライフデザイン(介護事業) (株)JALUX保険サービス(保険事業)※ (株)主婦の友ダイレクト(通販事業)※ (株)JALUXトラスト(不動産管理業)※
海外関連企業	JALUX AMERICAS, Inc. (ロサンゼルス)※ JALUX EUROPE Ltd. (ロンドン)※ JALUX ASIA Ltd. (バンコク)※ JALUX HONG KONG Co., Ltd. (香港)※ JALUX SHANGHAI Co., Ltd. (上海)※

※連結子会社

● 役員 (2011年6月17日現在)

代表取締役社長	横 尾 昭 信
代表取締役 副社長執行役員	高 橋 淑 夫
取締役 副社長執行役員	正 田 克 彦
取締役(社外)	寺 西 清 一
取締役(社外)	来 栖 茂 実
監査役	安 孫 子 正 行
監査役(社外)	奥 山 寛 二
監査役(社外)	佐 野 清 明
執行役員	片 山 博 幸
執行役員	久 門 耕 治



株式会社 **JALUX**

(東証1部：銘柄コード2729)

〒140-0002 東京都品川区東品川3-32-42
TEL 03-6367-8822 (経営企画部)

www.jalux.com



2011年6月発行

The **50**th **JALUX**
REPORT

事業報告
2010.04.01 - 2011.03.31



代表取締役社長
横尾 昭信

Akinobu Yokoo

株主の皆さまにおかれましては、
平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
また、このたびの東日本大震災により被災された地域の皆さま、
関係者の皆さまに心よりお見舞いとお悔やみを申し上げるとともに、
被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

2011年3月期の経営成績

当連結会計年度におけるわが国の経済は、アジア地域など新興国を中心とした経済の改善や、国内における政府の景気刺激策等により景気の上昇基調が現れたものの、急速な円高の進展や継続的なデフレ傾向等が影響し、厳しい事業環境が続きました。さらに、本年3月11日に発生した「東日本大震災」の影響により、東北地方を中心に甚大な被害を受ける等、国内景気にも大きな影響を及ぼし、先行き不透明感が増しました。

このような環境の下、当社グループの事業概況といたしましては、「航空関連事業」・「メディア・ライフサービス事業」において、低採算事業からの撤退や一部取引形態の変更等の影響により、売上高は前年を下回りました。一方、利益面では前期からの事業構造改革が奏功すると共に退役航空機材(中古航空機)の販売業務受託や不動産関連におけるサブリース事業等が好調に推移し、前年を上回る実績をおさめました。

「リテール事業」・「フーズ・ビバレッジ事業」においては、航空旅客数の減少や消費低迷の影響等により、空港店舗関連や通信販売関連が低調であったものの、贈答用食品関連や農水産関連が引き続き好調に推移し、売上高・利益ともに前年実績を上回りました。

これらの結果、当連結会計年度の売上高は95,541百万円となりました。損益面では、前連結会計年度より実施している固定費削減を中心とした事業構造改革による成果や収益・コストの徹底管理に取り組んだ結果、営業利益1,546百万円、経常利益1,603百万円となりました。

また、特別損益においては、今期における事業構造改革の一環として、主に海外子会社の事業整理や国内子会社の株式評価減、資産の

減損等により特別損失を計上した結果、当連結会計年度の当期純利益は492百万円となりました。

配当及び2012年3月期 業績の見通し

当社は株主の皆さまに対する利益還元を経営上の重要な事項と認識し、安定的に配当を実施することを基本方針としています。当期の期末配当金につきましては、1株あたり5円の配当とさせていただきます。

また、去る2011年3月11日の「東日本大震災」の発生を受けて、節電・計画停電や消費マインドの低下等による経済活動への影響により先行き不透明感が増しています。当社グループにおける業績予想に関しては、現時点では不確定要素が多く合理的な算定を行うことが困難なため未定とさせていただき、今後予想が可能となりました段階で速やかに公表いたします。

株主さまへのメッセージ

2010年3月より事業構造改革を推進し、効率性の高い経営を目指してまいりました。2011年度は、引き続き事業構造改革を継続していく一方で、当社グループの新たな成長ステージを具現化すべく、中期計画を策定してまいります。

当社は2012年3月に創業50周年を迎えますが、今後も「幸せづくりのパートナー」という企業理念のもと、企業価値向上に向け、全役員・社員一丸となって邁進してまいります。株主の皆さまにおかれましては変わらぬご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

決算総括

連結業績	前期	当期
	2009年4月1日～ 2010年3月31日まで	2010年4月1日～ 2011年3月31日まで
売上高	105,561	95,541
経常利益又は経常損失(△)	△310	1,603
当期純利益又は当期純損失(△)	△1,263	492
総資産	43,439	34,589
純資産	13,823	13,975
自己資本比率(%)	29.0	37.1
D/Eレシオ(倍)	1.1	0.5
ROA(%)	△0.7	4.1
ROE(%)	△9.3	3.9



航空機関連では、中古航空機の取引形態の変更ならびに航空機部品の取引減少から大幅減収となったものの、大量退役した中古航空機の取扱により利益面では堅調に推移しました。機材・調達関連では、空港特殊車両や鉄道車両向けシートの販売等は好調に推移したものの、機内用品等の調達が低調であったため、セグメント合計では、減収・減益となりました。



印刷メディア関連では、法人の需要減により低調に推移し、不動産関連では一部取引の形態変更により減収となりましたが、保険関連の売上は前年並みで推移しました。利益面においては、保険関連ならびに不動産のサブリース事業が堅調に推移したこと等により、セグメント合計では減収・増益となりました。

事業のセグメント情報 (2010年4月1日～2011年3月31日)

	売上総利益		
	前期	当期	前期比
航空関連事業	3,022	2,590	85.7%
メディア・ライフサービス事業	2,833	2,909	102.7%
リテール事業	13,985	12,970	92.7%
フーズ・ビバレッジ事業	1,995	2,209	110.7%

各事業の主な商品および販売形態

- 航空関連事業 航空機、航空機部品、機械・資材、特殊車両、生活資材、航空客室用品、繊維製品、衣料品
- メディア・ライフサービス事業 広告宣伝物、広告宣伝媒体等の企画・製作、事務関連品、保険、不動産、プロパティマネジメント
- リテール事業 航空機内販売品、雑貨、通信販売、空港店舗、免税店、贈答用食品
- フーズ・ビバレッジ事業 農水産物、畜産物、加工食品、ワイン

※2011年3月期よりセグメント区分を変更したため、前期は組替後の数値を記載しています。
※各セグメントごとの内訳は内部取引消去前金額です。



空港店舗関連では、航空機減便等による航空旅客数の減少により免税店を含めた店舗関連全体で減収となりました。通信販売関連でも、顧客数の減少や利用顧客層の変化により減収となりました。一方、ブランド品の免税店向け卸売や新規顧客を開拓したデパート向け贈答用食品関連は好調に推移し、セグメント合計では減収・増益となりました。



農水産関連では、サーモン加工品等の冷凍水産物や生鮮青果物の輸入販売において、円高基調を活かした取り組みにより、昨年度に引き続き過去最高の年度実績となりました。ワイン関連では、高額ワインが低迷したものの、商品構成や販売体制の見直しにより収益構造が改善され、セグメント合計では増収・増益となりました。

●連結貸借対照表

	前 期 2010年3月31日現在	当 期 2011年3月31日現在
資産の部		
流動資産	28,411	22,358
固定資産	15,027	12,231
有形固定資産	8,088	6,337
無形固定資産	1,364	699
投資その他の資産	5,574	5,195
資産合計	43,439	34,589
負債の部		
流動負債	21,603	15,423
固定負債	8,011	5,190
負債合計	29,615	20,614
純資産の部		
株主資本	13,163	13,676
その他の包括利益累計額	△555	△827
新株予約権	21	13
少数株主持分	1,193	1,113
純資産合計	13,823	13,975
負債純資産合計	43,439	34,589

●連結損益計算書

	前 期 2009年4月1日～ 2010年3月31日まで	当 期 2010年4月1日～ 2011年3月31日まで
売上高	105,561	95,541
売上原価	83,809	74,970
売上総利益	21,752	20,570
販売費及び一般管理費	22,047	19,024
営業利益又は営業損失(△)	△294	1,546
営業外収益	313	402
営業外費用	328	345
経常利益又は経常損失(△)	△310	1,603
特別利益	133	216
特別損失	1,614	766
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△1,790	1,053
法人税等	△531	576
少数株主損益調整前当期純利益	-	476
少数株主利益又は少数株主損失(△)	3	△16
当期純利益又は当期純損失(△)	△1,263	492

●連結キャッシュ・フロー計算書

	前 期 2009年4月1日～ 2010年3月31日まで	当 期 2010年4月1日～ 2011年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,170	4,946
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,617	300
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,824	△7,334
現金及び現金同等物に係る換算差額	12	△52
現金及び現金同等物の増減額(△減少)	2,048	△2,140
現金及び現金同等物の期首残高	6,091	8,139
現金及び現金同等物の期末残高	8,139	5,999

新たな成長ステージの確立にむけて

これまで実施してきた事業構造改革を継続し、より効率性の高い経営を目指してまいります。今後は、以下4項目を事業展開の柱ととらえ、新たな成長に向けて重点施策を推進してまいります。

今後の事業展開

4つの柱

1. エアライン周辺のサービス事業

2. エアポート関連事業

3. きめ細かいサービスと信頼を基盤にしたB to C、B to B to C事業

4. 海外における事業展開

コスト構造の改革と
筋肉質な企業体質の実現

経営資源の集中と
事業分野の見直し

事業構造改革 骨子

新たな成長ステージの確立へ

事業本部別 重点施策

航空/サービス事業

航空関連事業

航空分野の「専門集団」として事業領域を拡大

メディア・ライフサービス事業

創業以来のノウハウを駆使して「安心・安全」を提案

- 専門人材の調達力、専門ノウハウ(航空機部品、空港特殊車両等)
- 空港オペレーションの実績(ラオス(ヴィエンチャン)空港)

- ・ 中長期的に航空機や空港整備の需要増加が見込まれるアジア地域での事業展開を加速化
- ・ 航空外輸送関連マーケット展開(鉄道・船舶等)
- ・ 空港周辺の不動産開発、施設管理事業の拡充

リテール/フーズ・ビバレッジ事業

リテール事業

「旅と暮らし」に、洗練された高品質な商品・サービスを提供

フーズ・ビバレッジ事業

多様なネットワークを活かし「豊かな食生活」を提案

- 独自のリテールチャンネル
- 仕入れから加工、販売まで一貫して手がける優位性

- ・ 国内外の優良メーカー・サプライヤーなど幅広いネットワークを活用し、ヒット商品の開発・流通に注力(空港店舗、免税店、通信販売、ギフト事業等)
- ・ 小売店舗の収益性と専門性を高め競争力を強化
- ・ 付加価値の高い水産加工品などの商品開発や、国内およびアジア・欧米への輸出版売等を視野に入れ、事業拡大を目指す





空港店舗「BLUE SKY」プライベートブランド
「空パンー空港美食倶楽部ー」を
羽田・成田・新千歳空港にて限定販売

2010年7月より、空港店舗「BLUE SKY」では新プライベートブランド「空パンー空港美食倶楽部ー」の販売を羽田・成田空港限定で開始いたしました。プライベートブランドのシリーズ展開は、「BLUE SKY」では初めての試みです。

人気の高いサンドイッチ類をベースに、健康志向の高いビジネスマンや女性の皆さまのニーズにお応えする商品として、フレッシュでヘルシーな素材を使用しています。

2011年2月からは第2弾商品として羽田・成田空港に続き、新千歳空港限定でスーパークレーで有名な「株式会社YOSHIMI」プロデュースの空パンを販売しています。

今後も「BLUE SKY」では、お客さまのニーズに応えた商品開発を積極的に行ってまいります。どうぞご期待ください。



通販カタログ
「NOMADITA」を
創刊

JALUXは2010年8月、「旅」をキーワードに新たなライフスタイルをご提案する、通販(DM)カタログ「NOMADITA(ノマディータ)」を創刊しました。「旅から広がる快適スタイル」をコンセプトに様々な商品提案を行い、2011年3月には、人気ブランド「VIASAZABY」とのコラボレーション商品を展開するなど、ファッション性も重視したカタログとなっています。今後も、当社通販事業で培った経験を活かし、魅力的な商品をご提供してまいります。



「VIASAZABY」とのコラボレーション商品



株式会社JALUXトラストを設立

2011年3月、JALUXの100%出資により不動産管理業を営む株式会社JALUXトラストを設立しました。同社は、JALUXが培ってきた空港関連施設、寮、社宅、一般不動産などの施設運営管理を、確かな技術と独自の提案力により高品質なサービスをお客さまに提供してまいります。



JALUX所有物件 ベルシエロ羽田



社会貢献型株主優待制度 2010年度のご報告

2010年度の「社会貢献型株主優待制度」には、171名の株主さまよりご賛同およびご参加をいただきました。皆さまのご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

同制度は、当社からの拠出金ならびに当社社員からの寄付に加え、株主の皆さまも株主優待商品券をご活用されることにより、当社を通じて社会貢献活動にご参加いただけるものです。JALUXでは毎年3月末および9月末現在の株主の皆さまに対して株主優待商品券を進呈いたしておりますが、同制度の趣旨にご賛同くださった株主さまから株主優待商品券の一部をご返送いただき、当社がその株主優待商品券相当額を一括して

株主優待 株主優待について

毎年基準日において、100株以上所有の株主名簿記載の株主の皆さまに、次の通りJALUX株主優待商品券を進呈いたします。

株数	商品券枚数		年間優待額
	3月末	9月末	
100株以上 (500株未満)	2枚	2枚	4,000円
500株以上 (2,000株未満)	4枚	4枚	8,000円
2,000株以上 (4,000株未満)	7枚	7枚	14,000円
4,000株以上 (6,000株未満)	10枚	10枚	20,000円
6,000株以上 (10,000株未満)	12枚	12枚	24,000円
10,000株以上	14枚	14枚	28,000円

優待内容 JALUX通信販売カタログおよび空港ショップ、空港免税店でのお買い物において、1枚につき1,000円分の商品券としてご利用いただけます。(1年間有効)

適用対象 株主優待商品券は、通販カタログ『JAL World Shopping Club』、空港ショップ『BLUE SKY』、空港免税店『JAL-DFS』でご利用いただけます。

※インターネット通販、機内販売、「JAL PLAZA(東京・有楽町)」、「NAA&JAL-DFS(成田空港第1ターミナル)」等ではご利用になれませんので、あらかじめご了承くださいませようお願い申し上げます。

JALUX名義で環境保護団体や社会福祉団体などへ寄付させていただきます。

2010年度につきましては、本年3月11日に発生した東日本大震災の被災地支援を目的に、「日本赤十字社」へ寄付することといたしました。

これまでに171名の株主さまからお預かりした株主優待商品券相当額に加えて、会社からの同額の拠出金、さらに当社およびグループ会社役員より募った寄付金、空港店舗「BLUE SKY」、免税店舗「JAL-DFS」をご利用のお客さまよりご協力いただいた寄付金、**総額1,325,908円**を本年4月に「日本赤十字社」へ寄付いたしました。

JALUXグループは、一日も早い被災地の復興に向け、今後でもできる限りの支援に取り組んでまいります。

カタログ通販で使えます!

JAL World Shopping Club

[ジャル・ワールド・ショッピングクラブ]



空港内の店舗で使えます!

■BLUE SKY
[ブルースカイ]



●JAL-DFS
[ジャル・ディーエフエス]

